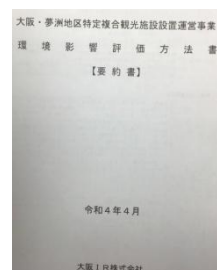


大阪 IR カジノ予定地の環境アセスメント

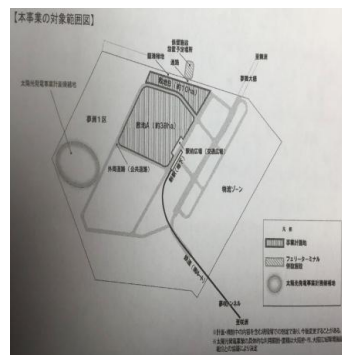
昨日 27 日、大阪市役所で作業をしているとき、その日の報道関係資料に注目した。大阪 IR カジノ計画（区域整備計画）の国への認定申請のあとに、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業環境影響評価方法書等の縦覧及び意見書の受付について」という資料があった。

正直なところ、こんなに早く大阪 IR カジノのアセスが始まるとは思っていなかった。国に認定申請した直後であり、まだ事業として認可されていないからだ。大阪・関西万博の環境アセスメント「評価書」の行方に注目していたが、今後は IR カジノのアセスについても目を向けていかななくてはならない。同じ大阪湾の人工島・夢洲の隣接した区域で実施される二つのアセスは、相互に関連しあっている。先行の万博アセスの展開が参考になる。



方法書「要約書」しか公開されていないが（どういうわけか方法書の本体は 5 月 2 日から公開されるという）、ポイントだけでも紹介しておこう。

事業者は大阪 IR 株式会社、事業の種類は都市計画法第 4 条 12 項に規定する開発行為を伴う事業（施工区域の面積が 50 ヘクタール以上であるものに該当）などである。事業の目的は IR 整備法に基づき、「大阪・関西が有するポテンシャルと民間の創意工夫を最大限活かしつつ、大阪・夢洲において特徴的な建築物などにより来訪者に新鮮な驚きや感動を提供する“wow”体験と大阪・関西が誇る観光・文化などの魅力が融合した新しい“wow”を地域に届け、地域とともに創出する“wow” Next をビジョンとし、観光先進国の実現に向けて水都として発展してきた大阪の伝統・精神を継承し、あらゆるものを「結ぶ」結節点となる「結びの水都」を開発コンセプトとする大阪 IR を整備することで、大阪をはじめ、関西・日本全体の更なる観光及び経済振興の実現を目指すものである」何ともまわりくどく、わかりにくい大阪 IR カジノの事業目的だ。



計画地面積は合計約 64.2ha（想定）、延床面積の合計は約 84 万 8000 m²、建築物の最高高さ約 135m と明記されている。軟弱地盤で液状化が懸念される夢洲で、135m もの高さの高層建築物が建てられるという。年間来場者数は約 1987 万人、日最大来場者数は約 10 万人、駐車台数は約 3200 台。想定工事期間は 2023 年度春～夏頃から 2029 年度夏～秋頃としている。来春からの工事を想定して、アセスの手続きを早めに設定したようだ。IR カジノの環境アセスに拙速は許されない。夢洲の環境を保全するうえで、きわめて重要な手続きである。今後、環境団体の皆さんとともに対応していきたい。

(2022 年 4 月 28 日)